

第5回 ダイビング漫画の中の沖縄



沖縄といえば海。海といえばダイビング。

ということで、今回は、ダイビングの面から沖縄を扱ったマンガを紹介する。

これまでに紹介した作品でもダイビングは取り上げられているので、できるだけ重複しないように、まだ紹介していない作品が主に出てくるように配慮しました。

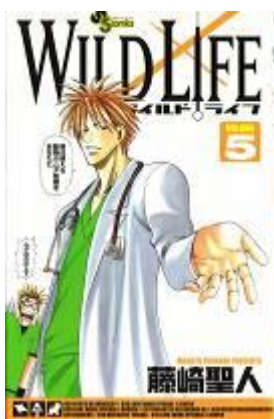


まずは、この2作品。いずれもエピソードとして沖縄でのダイビングが取り上げられています。

「きまぐれオレンジロード」第8巻（まつもと泉 / 作 集英社刊）

家族全員が超能力者の春日恭介は、つっぱり美少女・鮎川まどかに魅かれる。しかし、恭介にぞっこんのひかる、そしていとこの一弥、あかねが加わり、恋の関係は複雑怪奇に。

沖縄にスキューバダイビングのライセンス取得のため出かけたまどかを追って、恭介たちも沖縄へ。



「ワイルド・ライフ」第5～6巻（藤崎聖人 / 作 小学館刊）

熱い心と絶対音感を持つ獣医師・岩城鉄生の活躍。慶良間の海にマンタを見に出かけた一行は、そこでのダイビングで傷ついたマンタを見つける……。



「ダイブマン」第1巻（今谷鉄柱 / 作 講談社刊）LOG#2 幻の巨大魚を追え！

プロダイバー・純平の活躍を描く。舞い込んだ仕事は、沖縄の海中の石油パイプのメンテナンス。バディの玉城は、そこで人をも一飲みするほど巨大なタマカイ（ハタ）を追っているということで、純平も協力することに……。



「常夏食堂ナンクルナイサ」全3巻（原作/寺島優 作画/ちくやまきよし 双葉社刊）

石垣島を舞台に、描かれる沖縄ライフ。

常夏食堂ナンクルナイサの隣の店舗を借りたのは、伝説のスキューバダイビングのインストラクターで、夏海の初恋の人だった……各話の終わりに「おいしい沖縄」のコーナーがあり、沖縄の食を紹介してくれる。



「太陽娘（ティダネーネー）」全2巻（池田さとみ/作 小学館刊）

沖縄のダイビングショップに転職してきた渡辺明里の夢とガッツ?のお話。すてきな出会いと仕事の厳しさ、そして出会った優しい仲間と世話好きの沖縄のおばあちゃんのマイペースに乗せられて、てんやわんやの沖縄生活が……。

※サンゴの産卵が。



そして、2010年、その続編として**「ハイサイ太陽娘（ティダネーネー）」（池田さとみ/作 小学館刊）**が出版されました。

沖縄コミックに注目が集まる中、続編が出版されたのには、私も驚きました。



「たった4日で海の中スクーバダイビング〜超初心者のわたしもできた!〜」（監修/マレア・ダイビングカレッジ 絵/かずのヤスユキ ハギジン出版刊）

ダイビング・フェアでダイビングに興味を持った夏美は、プロのダイバー目指してダイビングスクールに通い始める。

プロのインストラクターを目指す夏美は、宮古島で講習を受ける。心配して宮古島を訪れた父親と祖母だったが、夏美の姿と宮古島の海に触れて……。

ハウツー本のコミック版ですので、コミックコーナーでは、まず見つからない貴重本です。



「ひとりたび1年生」(たかぎなおこ/作 メディアファクトリー刊) 南国でめざせダイバー沖縄編 エッセイまんが。

女一人旅に挑戦する作者がめざしたのは、沖縄でのダイビングCカードの取得。ダイビングライセンス取得の過程が細かに描かれる。那覇の観光も 1p あります。



これはすごい! なんとフルカラー130 ページのマンガ。

「りとうのうみ」(たかみち/著 ワニマガジン社刊)

沖縄の架空の島・那間古諸島(その離島に久良慶島と仲間島がある)で、ダイビングショップで生活する主人公・海を中心としたショートストーリー。

青い空と青い海の情景描写が美しいだけでなく、そこに流れるゆったりした時間さえも感じさせてくれる。



ダイビングマンガの傑作にもついに沖縄が登場した。

「あまんちゅ 第11巻」(天野こずえ/著 マッグガーデン刊)

夢ヶ丘高校ダイビング部の沖縄夏合宿の巻。ダイビングに関する注意や知識を学ぶのに最適なマンガ。1巻丸々使って、沖縄でのダイビングや観光名所の魅力を余すところなく描写したという点がすごい。



似たような沖縄合宿の作品に、以下があります。※ダイビング事故とかの話もあるけど、ここでは遠慮するね。

「ぐらんぶる」第4巻、5巻(原作/井上堅二、漫画/吉岡公威 講談社刊)

青春ダイビング・コメディが、ついに沖縄合宿を敢行。かなりハチャメチャな男たちだけど、ライセンス取得のステップなんかは、きわめて真面目。男の全裸があふれていて、そりゃあもう局部の黒塗りばかりですけど、ダイビングマンガだからねえ。



「のんのんびより」第7巻(あっと/著 KADOKAWA 刊)

超田舎にある旭丘分校には、小中合わせて5人しか生徒がいない。のんびりゆるゆるな毎日の中、旅行が当たって沖縄の旅を満喫することに。シュノーケリングやマングローブの川を上るカヌーなどなど、沖縄の旅に対してかなり好意的な描写が多い。



「神様のハナリ」第2巻(吉村拓也/著 集英社刊)

八重山の架空の島・羨母里島を舞台に展開されるヒューマン・ファンタジー。

全3巻だが、島での様々な人たちとの交流、そして優しいけれど厳しい生活環境を知り、島への移住について悩む望は、一度島を去りかけたものの、島で得た大事なもののために引き返していく。

第2巻では、フリーダイビングネタの話が載ってます。



「イオ」第1～10巻(恋緒みなと/作 講談社刊)

海中写真家だった父の愛した沖縄の海へ。

主人公の仲原は、そこで宮良三姉妹と出会う。

ダイビングと美女、そして古代遺跡の謎と仲原と宮良姉妹に流れる血のつながりが絡んで……。舞台は座間味島です。

作中で登場する遺跡って本当にあるんでしょうか？誰か教えてください。※青年コミックですので、Hシーンがいっぱいあります。



さて、今回締めくくりに紹介するのは、「Glaucos (グロコス)」第2巻（たなか亜希夫/著 講談社刊）です。

フリーダイビングで、極限の世界へ挑戦する特異体質の主人公と、それを支えるスタッフ。わかりやすく言うと、素潜りで深度記録に挑む話です。

第2巻では沖縄で行われた大会への参加とともに、与那国海底遺跡までも訪れる主人公。（大口ばかりで実力がないけれども、どこか憎めないひょうきんな沖縄代表選手も一人登場しています。）

ものすごくマイナーな作品ですが、見つけたら手に取っていただきたいと思います。

担当/量産工房